


熱海map

散策メモ

徳川家康が愛した温泉、熱海。その名の通り、熱い湯が海中に湧き出した為、その名が付いた。その温度は約90度あり、歴代の徳川将軍が江戸城まで湯を運ばせた話は有名だが、江戸に着く頃にはいい湯加減になっていたという。



仲見世、平和通り共に、干物などの土産物屋が軒を連ねる。

金色夜叉は、尾崎紅葉が書いた小説。印象的なシーンが像となり、舞台である熱海の浜に建てられている。

熱海海上花火大会は、夏だけでなく1年を通して10回以上行われている。

・凌寒荘(佐佐木信綱邸)

・潤雪庵(谷崎潤一郎邸)

来宮神社

来宮大明神は、熱海に住む人と、熱海に来た旅人を守ってくれる神様。

熱海七湯大湯間欠泉

熱海を代表する旅館として数多くの宿泊客を迎え入れた起雲閣。日本と中国、西洋の文化が混ざり合った内装は、とても美しい。文豪にも愛され、志賀直哉、太宰治、谷崎潤一郎などが宿泊している。現在は文化財として一般公開されている。

熱海城は、城という名前が付いているが、過去城郭として存在していたものではなく、観光用に作られた施設。秘宝館、トリックアート迷宮館と合わせて回れば、昭和のパブルを感じることができる。

名勝「錦ヶ浦」。断崖絶壁で今も波が侵食し続けている。歩いて降りていくことができない為、この辺りから眺めるのが一番らしい。

